

31H 山本 明日香 32H 今村 遼太郎
35H 室峰 亜衣 35H 大根 翼 36H 中島 亜依子

■課題 のと鉄道の利用者数が平成27年度を境に**減少傾向**にあること。

■解決策 駅を主体とした若者向けのイベントを開催、駅のホームのバリアフリー化、ベンチなどを設置し**利用者増加**を目指す。

■現状（課題の背景）

<のと鉄道とは>

七尾駅から穴水駅を通るローカル線である。平成27年度を境に年々利用者数が減少傾向にある。平成27年度に一時的に増加しているのは、能登が連続テレビ小説「まれ」の舞台となり、観光客が増加したためである。

<課題>

のと鉄道の利用者数が平成27年度を境に大幅に減少（図1）

（原因）

- ・能登地域の過疎化（図2）
- ・待合環境の満足度が50%未満と低い（図3）

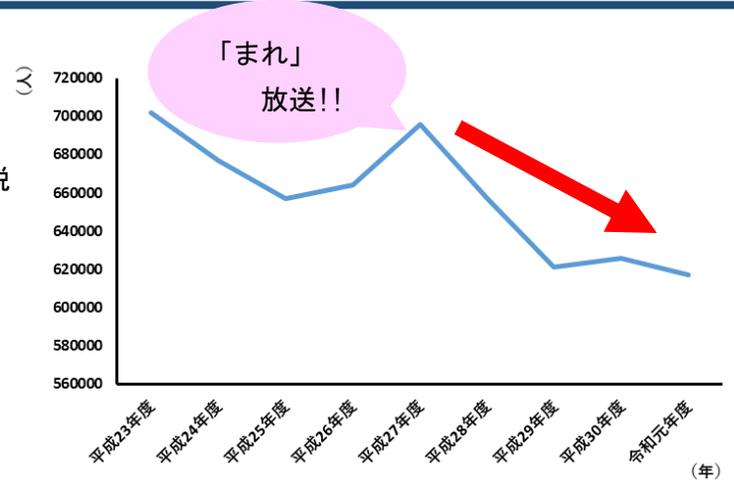


図1 のと鉄道の利用者数の変化¹⁾

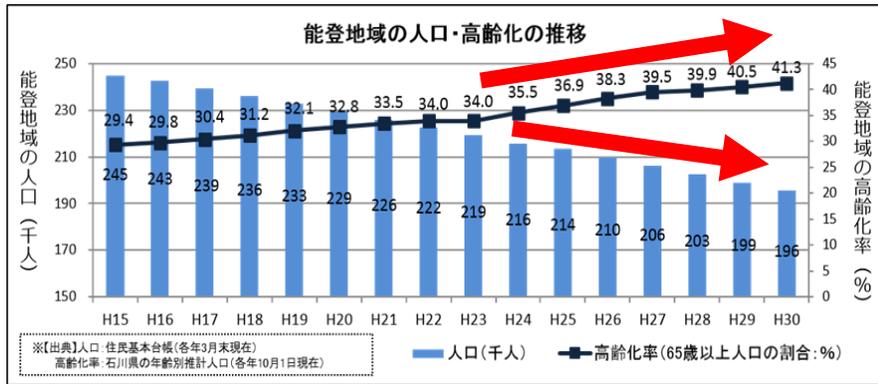


図2 能登地域の人口・高齢化の推移²⁾

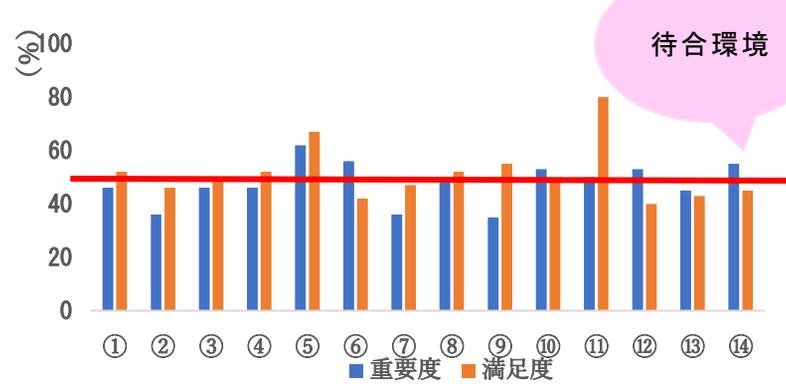


図3 鉄道サービスの満足度と重要度³⁾

■具体的内容

① 自家用車を持っていない若者にむけたイベントの開催

・鉄道サミットの開催、SNSを活用したイベントの宣伝
広島県 JR 芸備線の「県境鉄道サミット」を参考にし、能登の伝統工芸品の販売や特産物の試食などができるイベントを開催する。能登のお店や商店街と協力して能登の食べ物を車内販売する。

鉄道サミットとは??

各市町村が鉄道の利用促進、取り組みについて話し合い、市町村の特産物を販売し各地域の魅力を発信するイベント。

■効果

①(例) 広島県のJR芸備線は「県境鉄道サミット」により利用者数 前年比で平日：2.3倍↑ 休日：1.2倍↑⁴⁾

⇒のと鉄道でも似たような取り組みを行いさらに SNS を活用することで**若者を中心とした観光客増加や能登の知名度アップ**が期待できる。

→観光客増加による利用者数増加が見込める。

■具体的内容

② 待合環境の整備

・車いすやベビーカーに対応したスロープの導入、駅のホームにベンチや屋根の設置

■効果

②(例) 福井県のえちぜん鉄道でバリアフリー化

利用者数が年々↑⁵⁾

⇒障がい者や親子にとって待合環境を利用しやすいように改善することで、**満足度の上昇、需要が高まる**ことが期待できる。→利用者数増加が期待できる。



- 点字ブロック
- 屋根
- ベンチ
- スロープ

図4 西岸駅

<https://hyakumangoku.net/pref-ishikawa/notojima/nishigishi-stn.html>

■参考文献

- 管内鉄道軌道事業者輸送実績 - 北陸信越運輸局 (mlit.go.jp)¹⁾
- <https://www.mlit.go.jp/koku/chihokoku/municipality/03/img/301.png>²⁾
- nanao-moukeikaku04.pdf³⁾
- <https://news.yahoo.co.jp/articles/a2596c34531aea2c0297ff7b8cf423a83c517a7e>⁴⁾
- <4D6963726F736F667420506F776572506F696E74202D20323031333038303882A682BF82BA82F1935393B920959F88E4935393B920826B8271827390AE94F58C7689E682C982C282A282C42E70707478> (fukui.lg.jp)⁵⁾